



広島赤十字病院

広島高等師範学校本館・講堂跡

広島高師附属国民学校

広島文理科大学本館

創立70周年記念写真集 広島大学の70年

HIROSHIMA UNIVERSITY

1949→2019

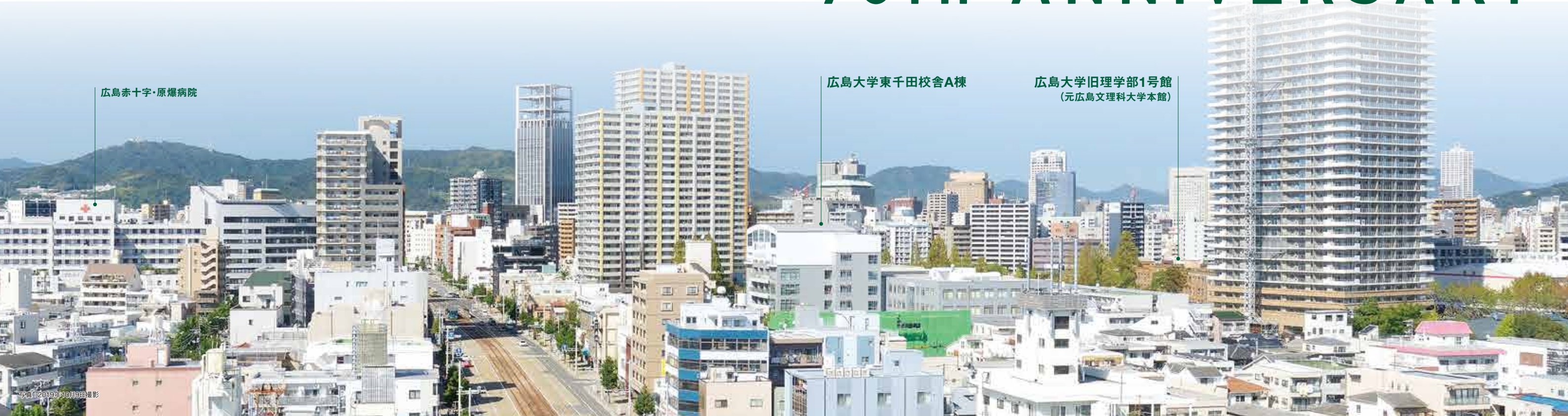
70th ANNIVERSARY



東広島キャンパス

霞キャンパス

東千田キャンパス



広島赤十字・原爆病院

広島大学東千田校舎A棟

広島大学旧理学部1号館
(元広島文理科大学本館)

建学の精神

自由で平和な一つの大学

理念

建学の精神である「自由で平和な一つの大学」の実現に向けて、この精神を踏まえ、学問と教育の府としての使命を果たすべく、広島大学の理念として、次の5原則を掲げています。

平和を希求する精神

新たな知の創造

豊かな人間性を培う教育

地域社会・国際社会との共存

絶えざる自己変革

学章

1955年、初代学長森戸辰男のもとで制定された学章は、平和の色「緑色」を配し、清新な生命とフェニックスの葉を図案化したものです。これは、エジプト神話に出てくる霊鳥フェニックスが、500年生きるとその巣に火をつけ、自分の身を焼き、灰の中から新たな生命をもって蘇るといわれる不死鳥であることになぞらえ、原子爆弾で廃墟となった広島市に新たに生まれた本学を象徴しています。



大学歌

歌詞／広島大学選定 作曲／広島大学教育学部音楽科

- 一 光あり
遠き山なみ 輝きて
新たな日は ひらけたり
あゝわれら
はてなき空に かたちなす
真（まこと）をぞ きはめん望みなり
- 二 流あり
古き歴史は 七筋に
わかれてとはに 伝へたり
あゝわれら
移らふ時に かはらざる
善（よ）きをこそ 努めん集（つど）ひなり
- 三 緑あり
つよき不死の樹（き） 広ごりて
葉末は風に そよぎたり
あゝわれら
明るき道に 影しるす
美（は）しきもの 求めん願ひなり

学長あいさつ

第12代広島大学学長 越智光夫

広島大学は、人類史上初の前身校を持つ大学でもあります。その一つである広島師範学校（1943年設立）の起源は、明治初期の1874年に設立された白鳥学校に遡ります。その後、1887年に広島高等女学校、1902年に広島高等師範学校、1920年に広島高等工業学校、1922年に広島県実業補習学校教員養成所、1923年に広島高等学校、1929年に広島文理科大学、1945年に広島市立工業専門学校と広島県立医学専門学校が設立されて、今日の広島大学の礎となりました。

「平和記念都市」広島を文化的中核として、平和の大学たらしめることを期する本大学が、世界と日本の平和的再建にたいして負う責任は、此の上なく大きいのであります。

以来、「平和を希求する精神」は広島大学のアイデンティティとして、脈々と受け継がれています。私自身も2015年に学長に就任して以来、「平和を希求し、チャレンジする国際的教養人」の育成に取り組んでまいりました。また、広島大学の新しい長期ビジョンとして策定した**SPLENDOR PLAN 2017**では、新しい平和科学の理念を「持続可能な発展を導く科学」とし、多様性をはぐむ自由で平和な国際社会の実現に向けて、様々な取り組みを推進しております。

これら前身校は原爆によって甚大な被害を受け、留学生を含む多くの学生生徒や教職員が犠牲になりました。焦土の中から出発した広島大学は、大学紛争、東広島へのキャンパス統合移転、国立大学法人化など激動の時代を経て、研究大学強化促進事業やスーパーグローバル大学創成支援事業タイプA（トップ型）に採択されるなど、国内有数の総合研究大学へと成長し、国内外で活躍する人材を多数輩出しています。また、2018年には「ゲノム編集先端人材育成プログラム」が卓越大学院プログラムに選ばれました。

歴史家のE.H.カーは「過去を見る目が新しくならない限り、未来への展望をもつことはできない」と述べています。この写真集は、広島大学の研究と教育、近年の大学改革、学生生活の移り変わり、卒業生の活躍など広島大学の歩みと歴史を振り返っています。100年後にも世界の平和に貢献し、世界で光り輝く大学に向かっていくための、よすがとなれば幸いです。

歴史家のE.H.カーは「過去を見る目が新しくならない限り、未来への展望をもつことはできない」と述べています。この写真集は、広島大学の研究と教育、近年の大学改革、学生生活の移り変わり、卒業生の活躍など広島大学の歩みと歴史を振り返っています。100年後にも世界の平和に貢献し、世界で光り輝く大学に向かっていくための、よすがとなれば幸いです。

100年後にも世界で光り輝く大学へ



1 世界トップ100を目指して

発展途上国の教育開発への貢献、大学間協定に基づく国際連携の拡大、国際大学ネットワーク(INU)の活動などの実績が評価され、広島大学は、2014年度に文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援事業」のトップ型に採択された。これを受け、現在、世界トップ100を目標に大学改革を推進し、教育力と研究力のさらなる強化に努めている。

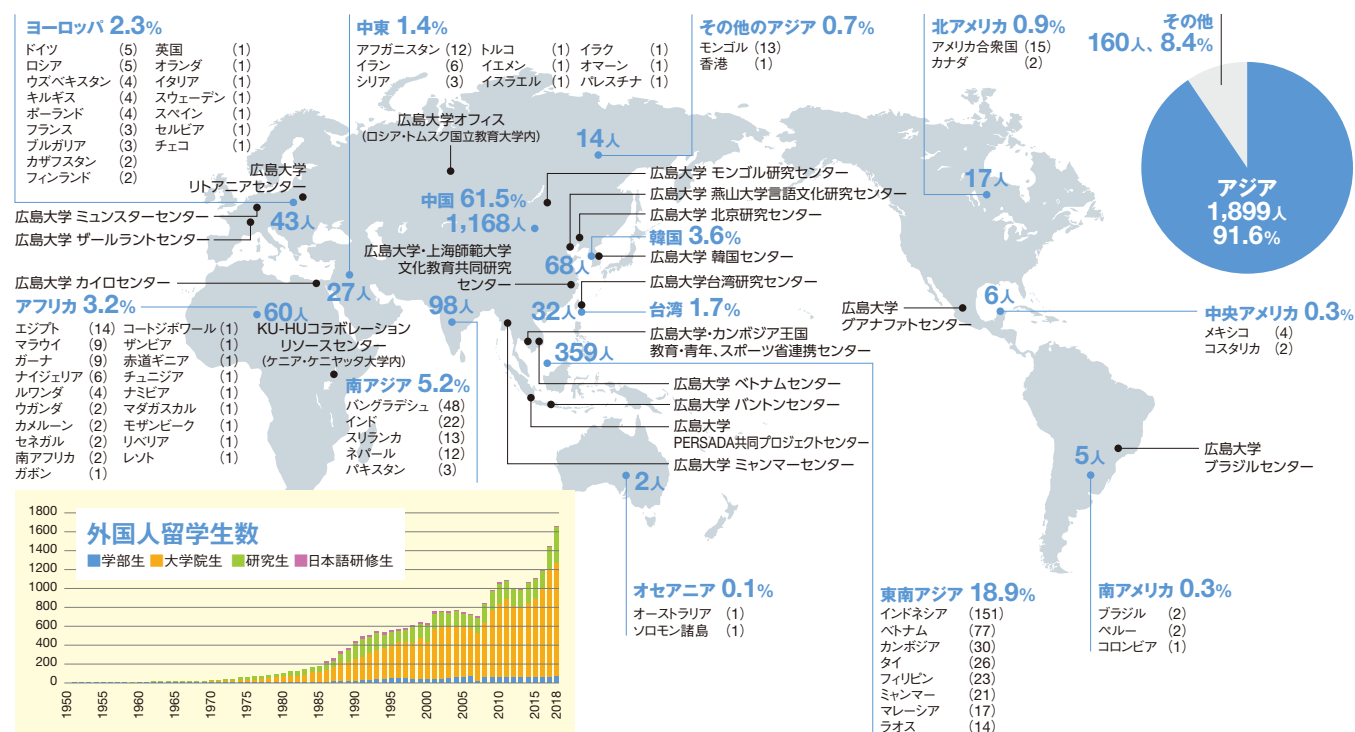
●国際交流の活性化



カリフォルニア大学バークレー校との大学間交流協定締結 (2017年)

海外の大学と国際交流協定を結び、教職員や学生の交流を積極的に促進している。

留学生出身国一覧 (2019年5月1日現在)



初の海外拠点:北京研究センターの設置 (2002年)

発展の著しい中国との交流拡大をめざし、首都師範大学の中に設置された。



カンボジア歯科医療支援活動 (2009年～)

歯学部では、NPO法人NGOひろしまと協力し、歯科の治療や予防教育の立ち遅れているカンボジアへの支援を行っている。



STARTプログラムの創設 (2010年)

学部1年生を対象とした短期留学制度。費用の一部を広島大学基金が補助。写真はベトナムの大学生とのディスカッションの様子 (2011年)。



総合科学部国際共創学科の設置 (2018年4月)

入学から卒業まで英語で授業を行うなど、特色あるカリキュラムを展開。国際社会で活躍する人材育成に取り組んでいる。



国際リンケージ型学位プログラム (ILDLP)

広島大学とインドの6大学・機関が共同でリーダー人材の養成を目指し、教育・学術交流を推進する。写真は2018年1月の協定締結式のもの。



森戸国際高等教育学院の設置 (2018年)

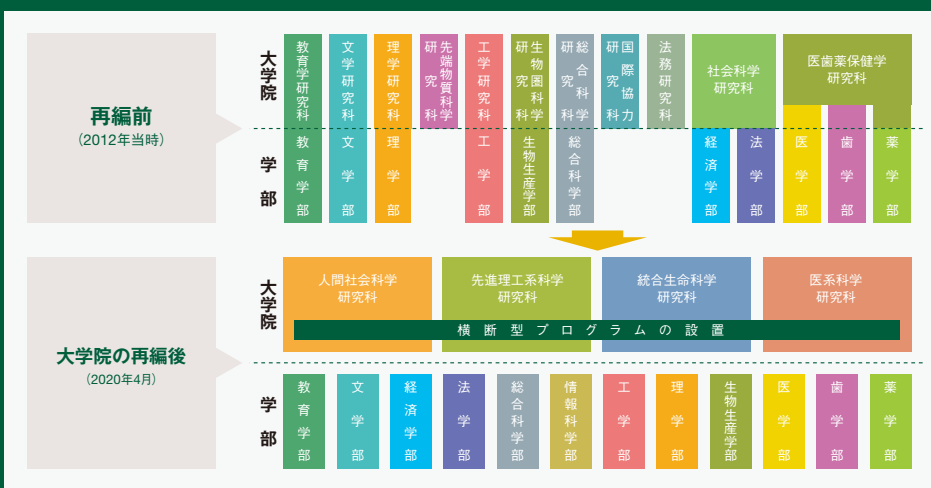
留学生への日本語教育や修学支援の強化を目的として設置された。写真は日本語研修の授業風景。

●学部・大学院の再編



学部・大学院の改組

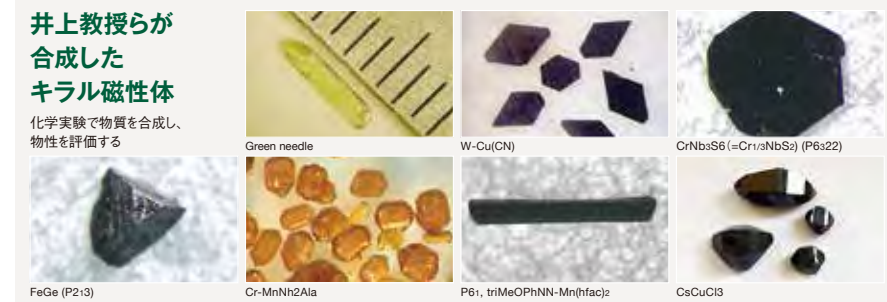
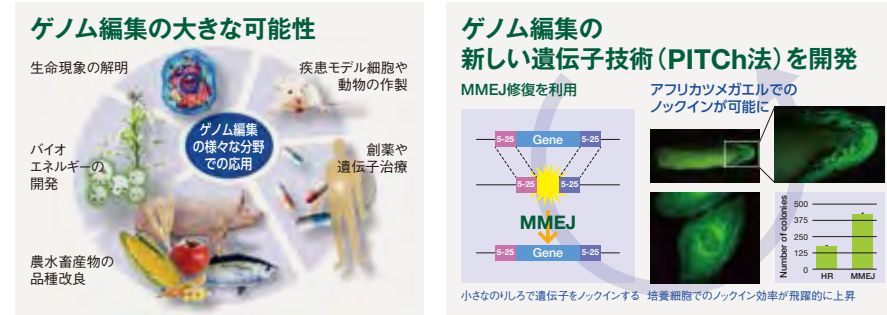
最先端の学術研究の推進をめざし、学部・大学院の再編を進めている。写真は2019年4月に発足した大学院統合生命科学研究科除幕式。



2 総合研究大学のDNA

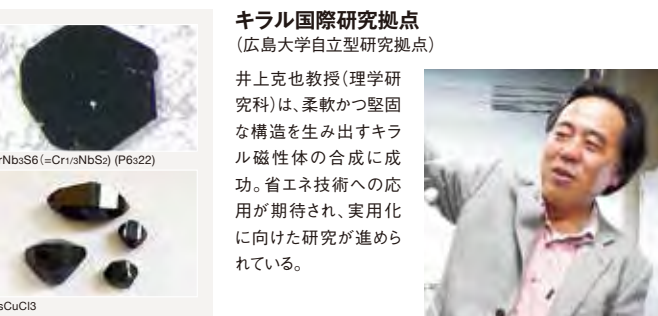
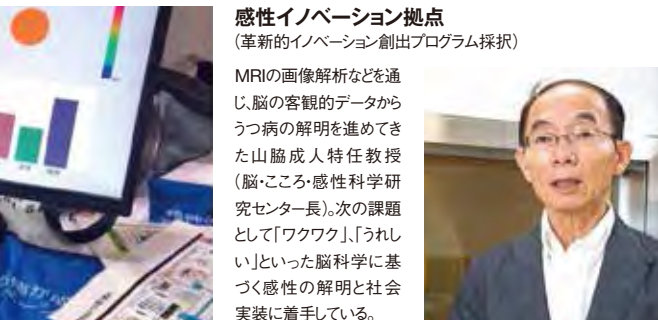
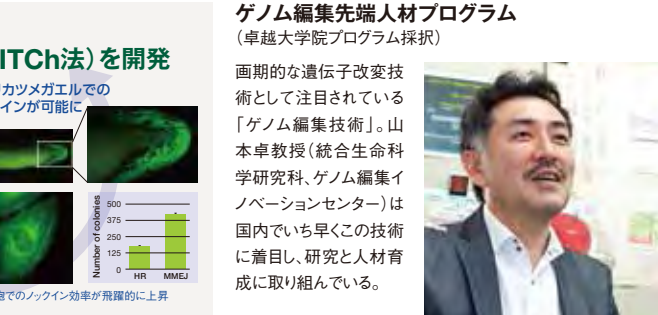
広島大学は、総合研究大学として、文系・理系を通じて特色のある研究実績を上げてきた。また、大学院大学として、前身校以来、多数の研究者を輩出してきた。こうした実績を背景として、2013年度には文部科学省「研究大学強化促進事業」に採択され、研究力の向上に取り組んでいる。

●現在注目を集めている研究



放射光科学研究センター (1996年設置)

国立大学に唯一設置された放射光実験施設であり、共同利用・共同研究拠点に認定されている。特色ある放射光先端計測設備を用いて物質科学・生命科学分野の世界トップレベルの研究および人材育成を推進している。

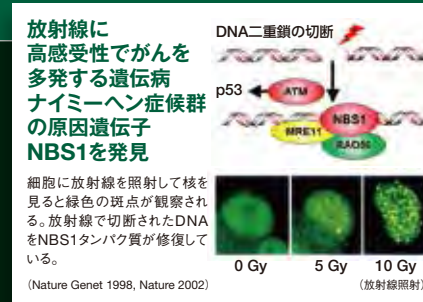


宇宙科学センター (2004年設置)

国立天文台から譲り受けた国内有数の主鏡径を誇る「かなた望遠鏡」をもとに東広島天文台を建設。フェルミガンマ線天文衛星やハワイの「すばる望遠鏡」などと連携し、ブラックホールなどの研究で成果を上げている。

放射線障害の解明や被ばく医療の開発と復興支援

原爆放射線医学研究所と大学病院が中心となって、長年、放射線障害の解明と被爆者治療や予防法の開発、国内外の被ばく者支援等に取り組んできた。



↑放射線に弱い病気の原因遺伝子を解明 (1998年、原医研)



↑原発事故対策の全面協力を佐藤雄平福島県知事へ申し入れ (2011年、左:神谷研二原医研所長、右:越智光夫大学病院長)

●学士院賞を受賞した研究者



↑ 藤原武夫 (1952年頃)

本学で最初の受賞者となった藤原武夫氏

研究だけではなく、理学部の復興や新制広島大学の創立にも尽力した。原爆の焼け跡の残る研究室でのスナップ写真。



↑ 川村智治郎元学長 (1955年頃)

広島大学とカエル

川村智治郎氏は、カエルの未受精卵の人為単性発生や動物界での最初の人工新種を作り出すなど先駆的な研究をおこなった。こうした研究実績をもとに、世界でも類例のないカエルの実験施設として両生類研究施設が1967年に設置された。



両生類研究施設の成果を紹介する記事

(『読売新聞』1982年6月9日夕刊)



小林芳規氏の研究成果を伝える記事

(『朝日新聞』1987年10月7日夕刊)

学士院賞受賞者一覧

受賞年	氏名	研究題目
1948年	藤原 武夫	任意の結晶方位を有するアルミニウム及び鉄単結晶の製作法とその物理的性質のX線的研究
1962年	川村智治郎	両生類を材料とする生物学的諸研究
1968年	金子金治郎	菟玖波集の研究
1980年	今堀 誠二	中国封建社会の構造—その歴史と革命前夜の現実—
1991年	小林 芳規	角筆文献の国語学的研究
2002年	沼本 克明	日本漢字音の歴史的研究—體系と表記をめぐって—
2011年	佐竹 明	「ヨハネの黙示録」に関する研究



説明パネルと両陛下へご進講する佐竹明氏 (2011年)



3 女性の活躍する大学

広島文理科大学では、1929年の開学当初から男女ともに入学資格を有していた。また、東京、奈良に続く3番目の国立の女子高等師範学校が広島に設置され、本学の前身校の一つとなった。こうした歴史に体现されている精神をさらに発展させるため、広島大学は2006年に男女共同参画宣言を制定し、組織をあげて男女の対等な参画を推進してきた。さらに現在では、もっと多様な人材が活躍する大学をめざして、ダイバーシティ研究環境の整備を進めている。

●男女共同参画の推進



広島大学女性研究者奨励賞 (2007年～)

本学の女性研究者が、より意欲的に研究を推進できる環境を整えるために創設された。また、2013年には広島大学女性活躍促進賞「メタセコイア賞」が創設され、女性の活躍の場を広げ社会全体の活力向上に貢献した個人・団体を顕彰している。



学内保育園・保育室の整備 (2008年～)

仕事と家庭の両立支援の一環。霞地区では、1971年に始まった自主運営の保育施設を2009年に大学直営とし、2014年には待機児童解消用の保育室も開室した。一方、東広島地区では2008年に大学直営の保育園を新設。さらに2015年には認可保育施設も誘致した。



男女共同参画セミナー (2011年～)

家事や育児の役割分担を見直すため、各種セミナーを通じて意識改革に取り組んでいる。写真は、湯崎英彦広島県知事がイクメン体験を講演する様子。



女性学生のためのキャリア支援セミナー

(2015年～)

社会で活躍する女性たちと直接触れあう機会をつくることで、学生のキャリア認識形成を支援している。



広島大学の取り組みを伝える新聞記事

(『朝日新聞』2010年5月29日)

●草創期の女性教授



岡上誠子 (1907～2005)

1951年に広島大学では初の女性教授となる。東京女子高等師範学校を経て、1936年3月広島文理科大学化学科卒業。専門は家政学。写真は同僚との集合写真。スーツ姿で前列右に腰かけているのが岡上氏。



荘司雅子 (1909～1998)

1954年に広島大学で二番目の女性教授となる。1938年3月広島文理科大学教育学科卒業。専門は西洋教育史、幼児教育学。写真は、1953年2月の学位授与記念祝賀会の時のもの。中央の女性が荘司氏。

●女性学生たちの風景



広島師範学校女子部の生徒たち (1907頃)

明治期において師範学校は、女性が進学できる数少ない上級学校の一つだった。



山中高等女学校 (のち広島女子高等師範学校)

1887年12月に山中正雄が創設。全国で3番目に古い高等女学校だった。同校を母体として女子高等師範学校が開学した。



標本の観察を行う女性学生 (1955年頃)

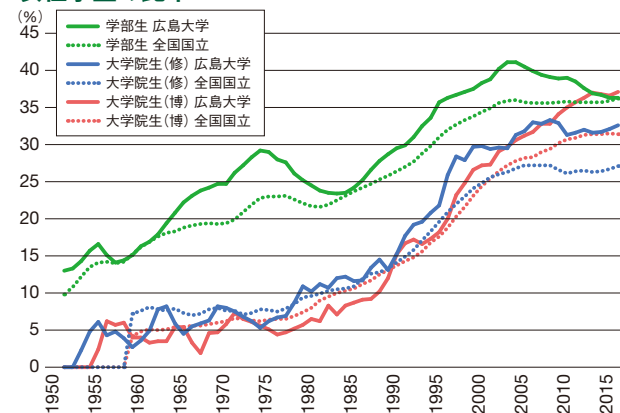
当時は、理工系の学部に進学する女性は少なかった。



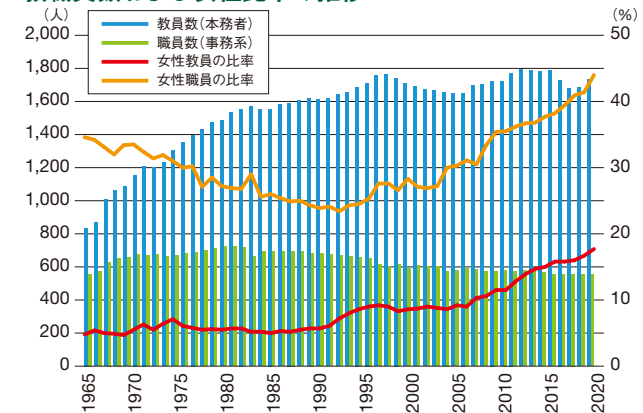
福山分校での歓迎行事 (1955年頃)

教育学部福山分校と東雲分校は、女子師範学校を前身とする課程があり女性学生の比率が高かった。

女性学生の比率



教職員数および女性比率の推移



4 教育の広島大学

1905年に東京に次ぐ2番目の高等師範学校が広島に設置された。同校を起点として1929年に広島文理科大学、1945年に広島女子高等師範学校が設置され、広島は全国有数の教員養成の拠点と見なされるようになった。戦後もこうした歴史を受け継ぎ、教育界に多くのすぐれた人材を輩出するとともに、学部や大学院の教育にも注力してきた。

●学都広島の源流



広島高等師範学校 (1914年頃)

初代校長北條時敏は鍛錬主義をもって教育を展開し、「良教師の養成」をめざした。戦前の中等教育において、広島高等師範学校は東京高等師範学校とともに中核的な役割を担った。



広島高等師範学校、同附属中学校を視察する摂政宮 (1926年5月)

戦前期において、天皇や皇族の行幸啓を仰ぐことは非常に名誉なこととされた。



長田新 (広島文理科大学学長) とベスタロッチャー研究

長田新は、スイスの教育者・教育思想家であるベスタロッチャーの研究に取り組み、教育界に大きな影響を与えた。これを記念し1992年にベスタロッチャー教育賞が創設された。写真は1998年の授賞式の様子。



総合科学部の創設 (1974年)

大学紛争をうけて教養教育の改革が行われ、総合的な研究領域の開拓と創造をめざす総合科学部が設置された。全国的に教養教育の改善が模索されるなか、新しい取り組みとして注目を集めることとなった。



●特色ある教育・研究の展開



高等教育研究開発センター (1972年設置)

全国初の高等教育の学術的研究機関として設置された。21世紀COEプログラムに採択されるなど、社会的評価も高い。写真は大学職員向けのIRセミナーの様子。



にこにこルーム活動風景 (2007年～)

附属教育実践総合センターでは、不登校やいじめ、学習のつまずきなど悩みを抱えた子どもへの支援活動を展開している。



アクセシビリティセンターの設置 (2008年～)

「2009年度版大学ランキング」で、障害のある学生への支援が1位となった。その後も学内外から高評価を受け続けている(「2000年度版大学ランキング」でも1位)。



博士課程教育リーディングプログラム (2012年～)

グローバルに活躍するリーダー育成のため、研究科の枠を超えた学位プログラムが実施されている。写真は「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」の研修風景。



医学研究実習 (2012年～)

医学部4年生を対象とした4か月間の実習。全国的に基礎研究の志望者が減少するなか、医学研究を志す学生育成を目的として開始された。



患者志向型宿泊勉強会 (2008年～)

薬学部3年生が対象。医療従事者としての倫理観の形成を目的として、薬害被害者を招いた勉強会が開始された。

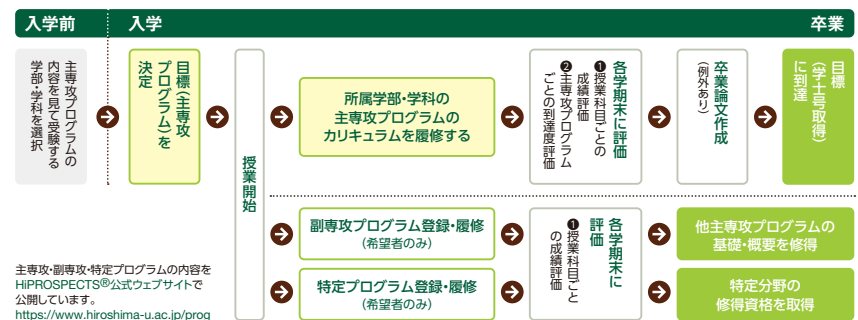


ザンビア特別教育プログラム (2002年～)

JICA海外協力隊としてザンビアの学校で教壇に立ちながら、国際協力研究科の大学院生として研究活動も行っている。実践と研究の融合を図った本邦初の試みである。

到達目標型教育プログラムの導入 (2006年～)

学生一人ひとりが教育目標を明確に設定し、目標達成度を絶対評価する教育方法を導入した。通称、HiPROSPECTS (ハイプロスペクツ: Hiroshima University Program of Specified Education and Study)。本学独自のシステムであるため、商標登録を行っている。



5 附属学校園の教育

附属学校および幼稚園は、実習を通じて次世代の教員を養成するとともに、基幹校として先進的な教育実践を行うことが求められている。戦前以来、各附属学校・園では国や地域の課題に応じた取り組みが積み重ねられてきた。

●新たな取組



修学旅行先での取材風景 (2018年)

附属東雲中では、2013年より新しい形の修学旅行を開始しSMARTと名付けている。生徒自身が自らの成長の場として修学旅行を認識し、自主的に旅行の計画を立て、現地でしかできない学びを体験している。



研究成果を説明する生徒 (2018年)

2003年に「スーパーサイエンスハイスクール」の指定をうけて以来、附属中・高(広島)では、トップクラスの科学技術系人材の育成に向け実績が積み重ねられている。



「体験グローバル」の授業風景 (2015年～)

附属福山中・高は「スーパーグローバルハイスクール」の指定をうけ、国際的な視点を持ち地域に貢献する人材を育成する方法を研究している。



幼稚園の裏山で活動する園児たち (2019年)

東広島への移転を契機に、園周辺の豊かな自然を生かし、「森の幼稚園」として幼児教育の研究を進めている。

●教育実践のあゆみ



自伸会総会風景 (1920年代)

附属三原は、「自ら伸びよ」をモットーに大正から教育を行ってきた。園児・児童・生徒の自主性を尊重する伝統は現代にも引き継がれている。



学会会での器楽演奏 (1925年)

附属東雲は、広島県師範学校の附属学校として新しい教育実践に取り組んできた。当時は器楽を用いた音楽教育が一部の学校で始まったばかりであった。



教育実習風景 (1950年頃)

附属学校は教育方法の開発とともに、教員養成でも重要な役割を担ってきた。写真は附属小学校(広島)でのもの。



養護学級第1回入学生 (1961年)

障害を持つ子供たちへの教育が本格化したのは、戦後になってからであった。附属東雲はいち早く養護学級を設置し、教育実践の研究を重ねた。



中高の校旗が並ぶ運動会入場行進 (1960年代)

附属福山は、1962年より全国に先駆けて中高一貫教育の実践を試みた。これにともないカリキュラムの編成や学校運営機構が大きく改められた。



「お姉さんといっしょ」 (1995年頃)

附属三原では最先端の学校間接続を目指し、幼小中の一貫教育を行っている。写真は幼稚園の4・5歳児、小学校4年生と中学生女子が一緒に行う運動会演目の一コマ。

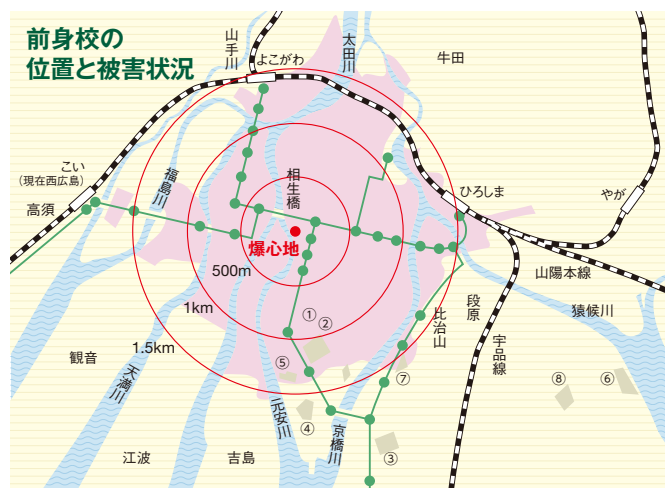
6 平和を希求する精神

1945年8月6日の原子爆弾による攻撃によって、前身諸校は大きな被害を受けた。このできごとは広島大学の原点となり、多くの構成員や卒業生たちが原爆被災の実相解明や被爆者の救済運動に取り組んできた。こうした歴史を踏まえ、本学の理念5原則(1995年制定)でも「平和の希求は、広島大学のすべての構成員の思考と行動の根底に置かれるべき精神」と位置付けられている。



被爆後の広島文理科大学付近 (1945年10月頃、米国国立公文書館所蔵)

広島赤十字病院の屋上から撮影したもの。左後方の広島駅、右後方の比治山までさえぎるものが何もない。



前身校の被爆死没者概数

(1945年末まで)

	学校名	教職員	学生・生徒・児童
①	広島文理科大学	46	20
②	広島高等師範学校	9	20
	同附属中学校	9	15
	同附属国民学校	2	13
③	広島高等学校	3	22
④	広島工業専門学校	10	83
⑤	広島女子高等師範学校	0	7
	同附属山中高等女学校	5	395
⑥	広島師範学校男子部	3	6
	同附属国民学校	3	2
⑦	広島県立医学専門学校	2	1
⑧	広島市立工業専門学校	不明	不明

出典:「生死の火」(広島大学原爆死没者慰霊行事実行委員会、1975年)

子供(高師生徒)を亡くした母親の手紙の一部

(広島平和記念資料館所蔵)

…九日の間苦しさのあまりお母さん、お母さん、と叫び続けていたそうで、とうとう最後にはお母さんが来たならば宜しく伝えて下さいと言残して目をつむったそうでそれがかわいそうで心に残って永久に忘れられないのです…



南大橋付近から北側の被害状況を描いた絵 (広島平和記念資料館所蔵)

正面に倒壊した広島女子高等師範学校および附属山中高等女学校が見える。下敷きになった生徒たちの助けを求める声が記されている。同校舎は14時頃焼失したとされる。戦後、同地には青雲寮、山中記念館、附属幼稚園等があった。



千田町方面から御幸橋へ逃げてきた人

(広島平和記念資料館所蔵)

絵の左奥に広島工業専門学校があった。教職員が避難してきた負傷者に対して応急手当を行った。



遺品:広島高等学校学生服 (広島平和記念資料館所蔵)

着用していた生徒は、学徒動員先の工場から帰宅途中に京橋町で被爆し、8月19日に死亡した。



南方特別留学生集合写真 (1944年)

太平洋戦争中、東南アジア地域の有力者の子弟を日本国内へ留学させる政策が行われた。1945年8月6日の時点で、広島文理科大学と広島高等師範学校に9名が在学し、うち2名が被爆死した。のちにブルネイの首相となるベンギラン・ユソフ氏は、このとき生き残った留学生の一人である。



「原爆死没者遺骨埋葬の地」碑建設式で

あいさつする飯島学長 (1972年12月25日)

前身校の原爆被災の実相解明が進められたことにより、全学的な慰霊の機運が高まってゆくこととなった。



受け継がれる慰霊行事 (2017年8月)

附属山中高等女学校は前身校の中で最も多くの犠牲者を出した。卒業生の高齢化にともない附属福山中・高等学校の同窓組織「広島オリーブ会」が慰霊祭の世話を引き継いでいる。



平和センター (旧平和科学研究センター)

全国初の平和学の学術的研究機関として1975年7月に設置された。平和科学に関する研究とともに、その成果に基づき平和に関する教育を推進している。



平和科目の創設(2011年)と
ピース・レクチャー・マラソン(2018年～)の実施

「平和」について考えることを通じて豊かな人間性を培っていくことをめざし、新たな取り組みに挑戦している。

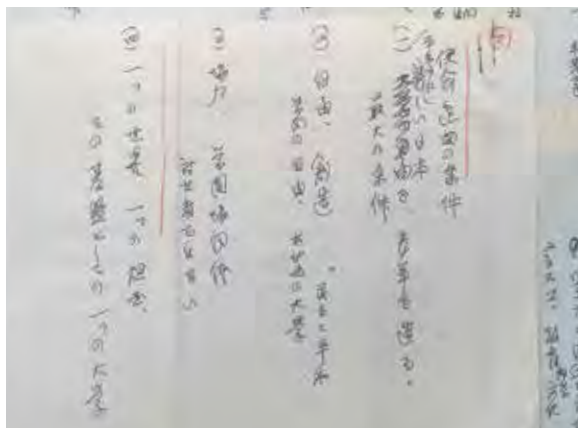
7 自由で平和な一つの大学

初代学長となった森戸辰男は、「自由で平和な一つの大学」を掲げ、広島大学が(1)中国・四国地方の中心大学、(2)地域性のある大学、(3)国際性のある大学となるよう尽力した。こうしたなか森戸は、世界各国の大学へ手紙を送り、キャンパスの緑化と平和問題に関する図書収集への協力を求めた。



第1回卒業式（附属小学校講堂、1953年3月25日）

新制広島大学の1期生714名が卒業した。森戸学長は、卒業生たちに対して「平和の戦士を生活の場に送る」心持であると述べた。



開学式挨拶森戸直筆メモ

（1950年11月5日）

建学の精神「自由で平和な一つの大学」のもととなった記述が確認できる。

森戸辰男（1888～1984）

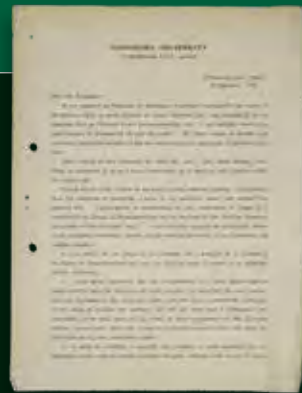
広島県福山市出身。1920年に社会主義者クロボトキンについて執筆した論文が批判を受け、東京帝国大学助教授の座を追われた（森戸事件）。戦後、衆議院議員となり片山・芦田内閣で文部大臣をつとめた。議員を辞職し1950年に広島大学の初代学長に就任した。学長退任後は中央教育審議会会長など、文教関係の要職を歴任した。

世界各地へ送られた依頼状（1951年）

森戸は世界各地の大学や研究機関に対して、原爆で荒廃したキャンパスの緑化に必要な樹木と、平和研究のための学術資料の寄贈を呼び掛けた。

手紙の一部

…そこで私（注：森戸のこと）は早速、大学緑化の計画をたて、焼けただれた赤錆色の大学でなく、みずみずしい緑色の大学にしたいと思いました。争闘と流血を象徴する赤でなく、緑こそ生々々の色、希望の色、平和の色と信じたからです。この計画の実施にも、世界の諸大学わけても貴大学のご協力をお願いしたいのです。それが達成された暁、ここに学ぶ数千の学生たち一現在わが大学には四千五百の学生がおりますが、自分の憩っている木陰はA大学の好意の恵沢であり、自分がその間を歩んでいる並木はB大学とC大学の共同の贈物であり、あの美しい花の生垣はD大学の熱意の印であること等々を知りえたとすれば、それは千万言の説法にまさる平和構神の鼓吹とならないでしょうか。…



理学部附属植物園で試験栽培される樹木（1950年代後半）

世界中から送られてきた種子や苗木は理学部植物学教室が育成し、栽培試験を兼ねて記録が取られた。



苗木を植樹する森戸学長（1950年代後半）

世界中から送られてきた樹木は、キャンパス各所に植樹されていった。



東千田キャンパス（1950年頃）

建物の再建はじまったばかりで、キャンパス内には空き地が目立つ。



植樹直後のフェニックス（1952年11月）

ウェスレイアン大学(USA)からの寄付金でフェニックスが購入され、正門前に植えられた。



森戸道路（1980年代前半）

原爆の焼け野原から復興する広島大学のシンボルとして、森戸は灰の中からよみがえる不死鳥（フェニックス）と同じ名前を持つ樹木を選んだ。のちに正門からの通路は「森戸道路」と呼ばれるようになった。



学生がデザインした学章

（1956年頃）

学章の制定にあたって、本学の職員と学生からデザインを募集した。応募作の中から工学部の学生だった中野幹也氏のもの選ばれた。写真は応募作品と、最終選考で使用されたと思われる試作品。ペンや鳥の羽を形どったデザインも候補だったことが分かる。

8 変わりゆく学園生活(1)

戦前は、大学など高等教育機関への進学率は数%に過ぎなかった。このためエリート養成機関としての性格が強かった。戦後も1960年代前半までは、こうした傾向が広く見られた。

●前身校の学生生活



「街頭ストーム」を行う広島高等工業学校の生徒（1940年）
旧制の諸学校では、生徒が集団で騒ぐ「ストーム」という行事が広く見られた。



自治会理事選挙の様子（広島高校、1934年頃）
旧制高校では、慣例として生徒による自治が認められていた。



学徒勤労動員の様子（広島青年師範学校、1941年頃）
戦時下の労働不足を補うため、学生・生徒は農村や工場での労働に従事させられた。

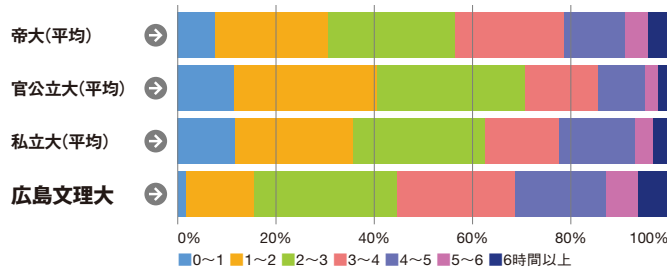


運動会集団演技「ドナウ河のさざ波」
（広島女子高等師範学校、1948年頃）
前身の山中高等女学校では健全な女性の育成をめざして体育に力を入れていた。運動会ではこうした教育の成果を披露する場であった。



教官宅での読書会（1935年頃）
証言によると、戦前は学生や生徒が教官の自宅を訪問することが広く行われていた。

講義以外の一日の平均勉強時間（1938年）



旧制大学の中でも、広島大学の前身である広島文理科大学は熱心に勉強する学生が多かった。真面目と評される広大生の原点をうかがわせるデータである。。
出典:「学生生徒生活調査(下)昭和十三年十一月調査」



受講ノート（1950年代前半）
教官が口頭で講義内容を読み上げ、学生が一字一句もらず筆記するという講義スタイルが広く見られた。ノート点検で単位を認定する授業もあり、下書き用と清書用のノートが必要だった。

●1950～60年代



授業風景（文学部、1951年頃）
燃料不足のため暖房が無く、学生はコートを着たまま授業を受けている。



卒業生送別会（教育学部福山分校、1952年2月）
教室を会場として開かれた。物資の少ない時代であり、現在と比べ簡素な様子うかがえる。



運動会での仮装（皆実分校、1953年頃）
戦前、旧制高校を中心に余興として仮装が広く行われていた。戦後もこうした慣習が受け継がれた。



ダンスパーティー（1967年頃）
1960年代に社交ダンスがブームとなった。部費を稼ぐために、ダンスパーティーを主催するクラブもあった。



薫風寮室内扉の落書き（1964年4月）
旧制広島高等学校の学生寮であった薫風寮は、原爆による倒壊を免れ戦後も引き続き使用されたが、老朽化が進み1965年に閉鎖された。



デモ行進の様子（医学部、1967年頃）
学生が社会的に意思を表明する手段の一つとして、デモ行進が行われた。

9 変わりゆく学園生活 (2)

1960年代後半になると、各地で大学紛争が深刻化した。広島大学でも1969年に学生がキャンパスを長期間封鎖し、社会の注目を集めた。このできごとが契機となり、広島大学は大学改革に取り組むとともに、東広島への統合移転を決めたのであった。

●大学紛争



学生との団体交渉に臨む飯島宗一学長 (1969年5月)

飯島学長は、学長就任受諾の記者会見で「どんな学生とも徹底的に話し合う」と述べ、大学紛争の解決と大学改革に尽力した。



霞キャンパス歯学部前のバリケード

(1969年、歯学部前)

霞キャンパスでも封鎖が行われていたが、教職員・学生の手により自主的に解除された。



吉島公園で開かれた新入生オリエンテーション (1969年6月)

授業が行えなかったため、1969年度の新入生は半年近く自宅待機を強いられることとなった。



機動隊導入による封鎖解除 (1969年8月)



新キャンパス構想パース図

未開発の丘陵地に新キャンパスが建設されることとなったため、さまざまな構想がたてられた。右側の図はブルバールのパース図。道沿いに医学部が配されるとともに、モノレールが描かれている。

●統合移転



山中ぶどう園 (1975年頃)

現在の理学部付近から工学部方面を眺めた風景。一面にブドウ畑が広がっている。



引越し作業 (教育学部、1989年)

大量の書籍や標本、実験装置を移動することとなり、各学部とも多大な労力を費やした。



開発の進む下見学生街 (1991年頃)

現在の郵便局付近からゆめタウン学園前店方面を眺めた風景。この後、学生用アパートの建設が一気に進んだ。



工学部竣工直後 (1982年)

工学部が先陣を切って新キャンパスへ移転した。周辺のインフラ整備が遅れ、弁当・長靴・懐中電灯が必要品と言われた。



霞地区 (上:1960年代後半、右:1985年頃)

かつては赤レンガの建物が立ち並んでいたが、組織の拡充にともない次々と建て替えられていった。キャンパス周辺も段原地区の再開発によって風景が一変した。

10 変わりゆく学園生活 (3)

1972年に決定された統合移転は、1995年の完了まで足かけ23年の歳月を要した。この間、日本の社会構造も大きく変化し、キャンパスの移転と相まって学生生活は様変わりすることとなった。



スペイン広場 (2011年、東広島、©今井優至)

教養教育科目が開講される総合科学部に隣接。休憩時にはサークルの勧誘やライブが行われ、多くの学生でにぎわっている。



↑ 東千田 (1995年)



↑ 東広島 (2008年、©今井優至)

合格発表風景

インターネットで合格発表が行われるようになり、掲示板前の風景は大きく様変わりした。



↑ 大久野島到着時の様子 (1973年)



↑ ミニファイヤーでの語らいの風景 (1974年)



↑ 班ごとに仮装し芋子港へ集合 (1992年)

全学オリエンテーションキャンプ (1973～1992年)

1973年に全学的な行事として体育会が始めた。全国的に珍しい取り組みとして注目を集めたが、時代が経つにつれて批判的な意見が出るようになり、1993年からは学部ごとの行事として行われるようになった。



↑ ハイジカコールに応える新入生 (1989年)

フェニックス駅伝

スポーツ普及事業の一環として1963年に体育会が始めた。現在はフェニックススリレーマラソンと改称し、東広島で続けられている。



↑ 左:1964年



↑ 右:1989年



↑ 1963年



↑ 仮装行列記念写真 (1965年、福山分校)



↑ 留学生懇親パーティー (1978年)



↑ 2018年

中央図書館閲覧スペース

学生のニーズにあわせて、グループ学習やインターネット専用スペースが整備された。24時間利用や学術的文章の作成支援など新しいサービスも始められている。



↑ 霞祭の一コマ (2018年、広島)

大学祭

かつては、各キャンパスごとに大学祭がおこなわれていた。仮装行列や運動会など、時代やキャンパスによってさまざまな催しが企画された。現在は、11月に東広島キャンパスと霞キャンパスで行われている。



↑ 教職員・留学生サッカー同好会 (1993年頃)

留学生

グローバル化の一環として、世界各国からの留学生の受け入れを進めている。1975年頃は100名程度であったが、現在では1,800人を超える留学生が広島大学で学んでいる。



↑ 第2食堂 (1994年、東千田)

食事の風景

キャンパスの整備にともない食堂は一新され、カフェやレストランが新設された。最近では、昼食時間を利用したミニコンサートや国際交流イベントなどが行われている。



↑ International Luncheon (2019年、東広島・学生プラザ)

11 社会で活躍する卒業生

1949年の新制大学発足以降、学士約14万人、修士約3万9千人、博士約1万2千人が本学を卒業・修了した。前身校の出身者約2万2千人を含め、多数の卒業生が国内外で活躍し社会へ貢献している。



SHITAMORI Sadamu

法政大学総長(第15代)

下森 定

(1953年政経学部卒)



SAMBUICHI Masao

山口大学長(第8代)

三分一 政男

(1957年工学部卒)



KIKKAWA Michihiko

島根大学長(第12代)

吉川 通彦

(1958年理学部卒)



NOGAMI Tomoyuki

神戸大学長(第12代)

野上 智行

(1968年教育学部卒)



ITO Kimiko

京都教育大学長(第14代)

位藤 紀美子

(1968年教育学部卒)



MATSUDA Masahisa

愛知教育大学長(第11代)

松田 正久

(1972年理学研究科博士課程前期修了)



NOJI Sumihare

徳島大学長(第13代)

野地 澄晴

(1974年理学研究科博士課程前期修了)



OSHIRO Hajime

琉球大学長(第16代)

大城 肇

(1977年経済学研究科修士課程修了)

広島大学出身の国公立大学学長経験者

卒業・修了年	学部・院	氏名	主要な経歴
1954	文	藤本 黎時	広島市立大学長(第2代)
1956	教育	上寺 久雄	兵庫教育大学長(第2代)
1956	教育	溝上 泰	鳴門教育大学長(第4代)
1957	工	三分一政男	山口大学長(第8代)
1958	理	吉川 通彦	島根大学長(第12代)
1960※	理	桂 幸昭	琉球大学長(第12代)
1961	教育	高橋 啓	鳴門教育大学長(第5代)
1961	教育	中渕 正堯	兵庫教育大学長(第5代)
1968	教育	野上 智行	神戸大学長(第12代)
1968	教育	位藤紀美子	京都教育大学長(第14代)
1972※	理	松田 正久	愛知教育大学長(第11代)
1974※	理	野地 澄晴	徳島大学長(第13代)
1977※	経済	大城 肇	琉球大学長(第16代)
1977※	教育	加治佐哲也	兵庫教育大学長(第7、9代)
1987※	教育	青木 信之	広島市立大学長(第4代)

注：※は修士課程・博士課程前期修了年。本学の学長経験者を除く。



企業の人事担当者の大学イメージ調査

日本経済新聞社と日経HRの調査で、企業の人事担当者が広島大学の卒業生を高く評価していることが分かった(『日本経済新聞』2019年6月6日)。

広島大学出身の著名人

卒業・修了年	学部・院	氏名	主要な経歴・肩書
1956	工	南 維三	日立造船社長
1958	水畜産	熊井 英水	近畿大学水産研究所長、マグロ完全養殖の第一人者
1964	政経	深山 英樹	広島ガス社長・会長、広島商工会議所会頭
1965	政経	鉄村和二郎	五洋建設社長
1968	文	大下 英治	作家。1985年に日本文芸大賞現代文学賞受賞
1968	工	野村 實也	中国工業代表取締役社長
1969	政経	椋田 昌夫	広島電鉄代表取締役社長
1969	水畜産	坂田 明	ジャズミュージシャン
1973	工	藤村 修	衆議院議員(6期)、内閣官房長官(第80代)
1976	水畜産	尾崎 英雄	フジ代表取締役社長・会長
1978	政経	平岡 英雄	西京銀行取締役頭取
1978	政経	遊川 和彦	脚本家
1978	政経	松山 澄寛	九州フィナンシャルグループ会長、鹿児島銀行頭取
1979	工	山下 良則	リコー代表取締役社長執行役員・CEO
1979	政経	内藤 亨	バラカ社長・会長
1980	工	先瀨 一夫	蝶理 代表取締役社長兼執行役員
1982	法	平井 耕司	鳥取銀行代表取締役頭取
1986※	工	浅野 和志	萩原工業代表取締役社長
1986	文	田中 貴子	甲南大学教授。2004年にサントリー学芸賞受賞。
1988	総合科	南 利幸	気象予報士
1992	総合科	堀川 恵子	ノンフィクション作家。大宅賞、司馬遼太郎賞等を受賞。
1996	教育	喜安 浩平	俳優、声優、脚本家
1999	工	田中 卓志	お笑い芸人
2006	文	小山田浩子	芥川賞作家



↑ 尾崎英雄



↑ 平岡英雄



↑ 南利幸



↑ 堀川恵子



FUJIMURA Osamu

藤村 修 (1973年工学部卒)

政治家。野田内閣で内閣官房長官(2011~12年)を務めた。

学生時代は、体育会自動車部での活動が多く時間を占めました。昭和44年の入学で、学生運動最盛期。入学と同時に半年間の休校で、大学生活はクラブ活動からのスタートでした。その活動の中で「交通遺児」に出会いました。自動車と交通事故。これはコインの裏表で、自動車部もこの問題に真剣に取り組んだ時代です。遺児の高校進学のための募金運動に参加し、広大は中四国の中心になっていました。この募金運動は今でも「あしなが学生募金」として50年間も続いてきた社会運動です。そして、私はこの活動から東京の「交通遺児育英会」に就職、さらに遺児救済の運動は政治参加に繋がわり、国会議員になったのでした。



OYAMADA Hiko

小山田 浩子 (2006年文学部卒)作家。
2014年に小説「穴」で芥川賞受賞。

豊かな木々の緑が揺れ鳥が鳴き風が吹き若者たちが闊歩する地上のキャンパスから地下にもぐり、中央図書館の書庫で卒論に必要な本を探した日々が記憶に残っています。私以外誰もいない、薄暗い、静かで古い本のおいがする書棚の間にと、ああ自分は今勉強しているなあ、大学生になったんだなあと誇らしく、同時に、でもこんなにたくさん本、どうやって読むことも理解することもできるわけがない、とちょっと途方に暮れるような気持ちにもなりました。多分、その、私には全部は理解できっこないと思った時の小さい絶望のようなものが、学ぶということの入口だったのだと思います。



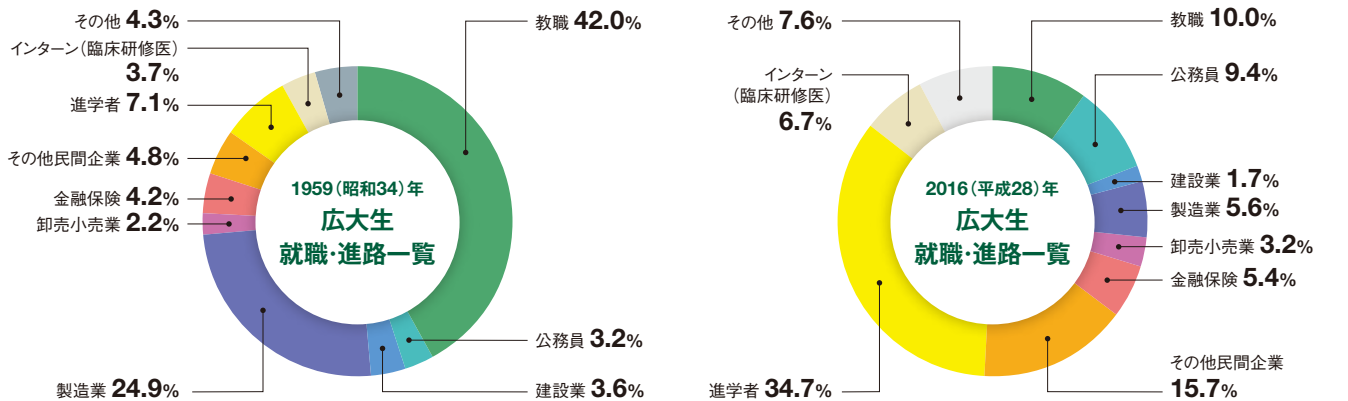
TANAKA Takashi

田中 卓志 (1999年工学部卒)お笑い芸人。アンガールズとして多数の番組に出演中。
広島大学アンバサダー。

創立70周年おめでとうございます。僕は広島大学が西条キャンパスに完全移転完了した年の平成7年入学です。あの頃は大学の周りに何もなかったのに、今はちょっとした街になっていて羨ましいです。僕はアルバイトしたくて、アルバイト先が無さすぎて広島市内まで行ってアルバイトをしたりしていました。さて、僕は広島大学卒業生で唯一?のお笑い芸人なのですが、クイズ番組で広島大学卒!と肩書き出ている時は、広大の為に気合を入れて答えるようにしています。しかし、クイズ番組は、僕の得意な理系問題が極端に少ないので間違っただけ!!大変申し訳ないです。もう少し広島大学の為に貢献できるように頑張ります!!で!!

卒業生の就職・進路の変遷

かつては卒業生の約半数が教員となっていた。現在では大学院の進学者が約4割を占めるようになっている。



12

広島大学のあゆみ

1874
(明治7年～)1945
(昭和20年)1949
(昭和24年)1953
(昭和28年)1963
(昭和38年)1965
(昭和40年)1969
(昭和44年)1972
(昭和47年)1973
(昭和48年)1974
(昭和49年)1976
(昭和51年)前身諸学校の創設
(前身校の中でも最も古い白鳥学校が
設立される。)広島市に
原子爆弾投下新制国立大学として
広島大学創設県立広島医科大学を
併合(医学部を設置)広島大学体育会が
発足

歯学部を設置

大学紛争が激化。
警察力の導入によって
封鎖解除。評議会が
統合移転を決定初の新入生歓迎キャン
プ(オリキャン)開催

総合科学部を設置

工学部を改組。
類・大講座制となる。初代学長 森戸辰男
(1950～1963在任)第2代学長 皇至道
(1963～1966在任)第3代学長 川村智治郎
(1966～1969在任)第4代学長 飯島宗一
(1969～1977在任)第5代学長 竹山晴夫
(1977～1981在任)第6代学長 頼実正弘
(1981～1985在任)1982
(昭和57年)1994
(平成6年)1995
(平成7年)1998
(平成10年)1999
(平成11年)2004
(平成16年)2014
(平成26年)2018
(平成30年)2019
(令和元年)

東広島キャンパス開校

大学院国際協力研究科
(独立研究科)を設置統合移転完了
広島大学の理念5原則
を公表大学院先端物質科学
研究科(独立研究科)を
設置大学院理学研究科の
重点化国立大学法人広島大学
発足スーパーグローバル大学
創成支援事業(SGU)
「タイプA(トップ型)」採択卓越大学院プログラム
採択

創立70周年

第7代学長 沖原豊
(1985～1989在任)第8代学長 田中隆莊
(1989～1993在任)第9代学長 原田康夫
(1993～2001在任)第10代学長 牟田泰三
(2001～2007在任)第11代学長 浅原利正
(2007～2015在任)第12代学長 越智光夫
(2015～現在)

↑ 東広島キャンパス



↑ 霞キャンパス



↑ 東千田キャンパス

取材協力者・資料提供者一覧 (50音順・敬称略、学内を除く)

- 【機 関】 愛知教育大学、アカシア会、朝日新聞社(承認番号19-4306)、オフィスT、京都教育大学、島根大学、中国新聞社、徳島大学、日本経済新聞社、広島県立文書館、広島市公文書館、広島市都市整備局、広島平和記念資料館、法政大学史委員会、山口大学、読売新聞社、琉球大学、ワタナベエンターテインメント
- 【個 人】 青木晴夫、石川博子、石丸紀興、伊藤孝子、今井優至、小川隆道、川口英雄、楠忠之、佐伯一郎、佐竹明、下森定、鈴木幸夫、田子はるみ、田村咲江、戸田常一、中村昌典、服部宜昭、原田茂、久永洪、文沢隆一、藤賀醇子、富士田亮子、藤谷義信、藤原雅子、藤村修、部谷きよみ、増本美智子、松井英太郎、松尾裕美、松平頼知、光易恒、牟田泰三、室岡義勝、吉田和夫

編集協力／株式会社ユニバーサルポスト、フューチャーグラフ

無断での転載、画像等の二次利用はご遠慮下さい。



広島大学

編集：広島大学75年史編纂委員会・同編纂専門委員会、
75年史編纂室〒739-8524 広島市鏡山一丁目1番1号 広島大学75年史編纂室
TEL.082-424-5120 FAX.082-424-6049
E-mail nenshi75@hiroshima-u.ac.jp

2020年2月10日印刷／2020年2月21日発行